

模範解答

臨時休校課題④

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお、特に断りがない場合、句読点は一文字に数えることとする。

天徳の御歌合のとき、兼盛、忠見、ともにa御隨身にて、左右Aについてけり。①初恋といふ題を給はりて、忠見、名歌よみ出だしたりと思ひて、兼盛も②いかに名は「まだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか」

A 恋すてふわがねは「まだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか」
 さて、すでに御前にて講じて、判ぜられけるに、兼盛が歌に、

B つつめども色に出でBにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで
 b 判者ども、名歌なりければ、判じわづらひて、③天知をうかがひけるCに「帝、忠見が歌をば、而三度御詠ありけり。兼盛が歌をば、c 多反御詠ありけるとき、天氣左にありとて、④兼盛勝ちにけり。」

忠見、心愛くおぼえて、胸ふさがりて、不食の病つきてけり。頼みなきよし聞きて、兼盛口とがらひければ、「別の病にあらす。御歌合のとき、名歌よみ出だしておぼえ侍りしに、殿の『ものや思ふと人の問ふまで』に、あはと思ひて、あさましくおぼえしより、胸ふさがりて、かく重り侍りぬ。」と、つひに目みまかりにけり。

⑤執心こそよまかりにけり。道を執するならひ、あはれにこそ。ともに名歌にて、拾遺に入りて侍るDにや。

問一 点線部a～cの読みをひらがなで答えなさい。(各①点) はんじゃ、たへん

a	みずいじん	b	はんじゃ	c	たへん
---	-------	---	------	---	-----

30

問二 二重傍線部A～Dの「に」の文法的説明として適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(各①点)

- ア 格助詞 イ 接続助詞 ウ 完了の助動詞の連用形 エ 断定の助動詞の連用形
 オ ナ変動詞の活用語尾 カ ナリ活用形容動詞の活用語尾 キ 副詞の一部

A	ア	B	ウ	C	イ	D	エ
---	---	---	---	---	---	---	---

問三 傍線部①の意味を五字以内で簡潔に説明しなさい。(②点)

恋の始まり

恋愛の初期等、表現でも

問四 傍線部②を現代語訳しなさい。(②点)

こうしてこれほどの歌をよむことができなうか、いや、さうまい。

可能で詠せて、反語で書かれていて

問五 傍線部一～目の意味を答えなさい。(各①点)

I	早くも一もう	II	見舞い	III	死ぬ／＼なる
---	--------	----	-----	-----	--------

問六 A、Bの和歌について、後の問に答えなさい。

1 Aの歌にある「人知れずこそ思ひそめしか」を口語訳しなさい。(②点) 単純に「思ひそめしか」

2 Bの和歌の説明として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。(②点)

- A 恋心を隠して苦しいが、「もの思ひをしているのですか。」とあらわに人に問われるまでは恋い続けようという決意をよんだ歌。
 イ 人から「もの思ひをしているのですか。」と尋ねられて、隠そうとしていた恋心が、もはや隠しきれなくなっているとよんだ歌。
 ウ 「もの思ひをしているのか、いや、そんなことはないだろう。」と人に言われたけれど、もう恋心は隠せないと言んだ歌。
 エ 恋心を恋人が察してくれ、「もの思ひをしているのですか。」と言って訪ねて来てくれた、恋を得た喜びをよんだ歌。

イ

3 A、Bの和歌に共通して用いられている表現技法を漢字三字で答えなさい。(②点)

倒置法

問七 傍線部③とはどのような意味か五字程度で答えなさい。(②点)

天皇の意向

帝の気持ち等の表現でも

問八 傍線部⑤とあるが「道」とは何か明らかにして、忠見に対する編者の思いを三十字程度で説明しなさい。その際、「一般的に」という書き出しに続けて書くこと。(④点)

一般的に

②	物事に執着する	③	執着する	④	執着する
⑤	歌道に執着する	⑥	習慣は	⑦	すばりしい

問九 傍線部⑥とあるが、同じく勅撰和歌集に含まれないものを次の中から選び、記号で答えなさい。(②点)

- ア 千載集 イ 詞花集 ウ 後撰集 エ 古今集 オ 万葉集 カ 金葉集

オ

問十 この文章を取録した作品についての説明として、正しいものを次の中から選び、記号で答えなさい。(②点)

- ア 本作品は無住道暁が編纂し、平安時代後期に成立した仏教説話集である。
 イ 本作品の編者は鎌倉時代中期の学者であり、和歌にも精通している橋成季である。
 ウ 本作品と同年代の日記文学として女流歌人阿仏尼の紀行文『十六夜日記』がある。
 エ 本作品と同じ仏教説話集の『発心集』を編纂した鴨長明は歌論『每月抄』も執筆している。

ウ